

全国学校・園庭

ビオトープコンクール 2023 報告書



公益財団法人

日本生態系協会



ドイツ大使館賞

学校法人東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園（東京都）



ドイツ大使館賞は、特にユニークな学習・体験活動を行っているとして、東京ゆりかご幼稚園が受賞しました。

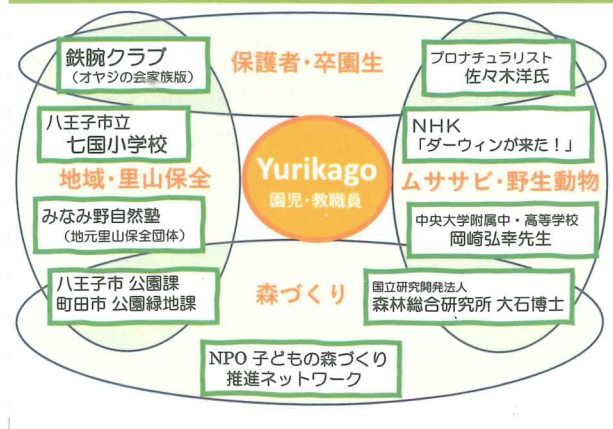
同園は、特別緑地保全地区の隣接地に園を設置し、園庭にビオトープを創出しました。隣接する林からムササビが訪れたことをきっかけに、ムササビを題材に「環境」や「表現」などの領域での学習活動を積極的に展開しています。



ムササビの劇を作り 生活発表会で発表



多様な連携とサポート



園庭でのムササビとの出会い

当園は、10年前に移転し、現在、八王子ニュータウンと特別緑地保全地区に囲まれた自然豊かな場所にあります。園庭全体を総合的ビオトープとして捉え、具体的には、田んぼ、池、小川、草はら、森の5つのビオトープで構成されるよう、整備・維持管理が行われています。

ある日、木の上を見て「リスがいる！」と叫ぶ園児がいました。担任と一緒に見守ると、木から木へと飛ぶ姿がありました。「リスに似ていて飛ぶ生き物はなんだろう？ひょっとしてムササビかもしれない」ということで、夜間に園庭に TENT を張り、親子で観察会を行いました。すると、木から木へと滑空するムササビを確認することができました。

ムササビを題材に広がる園児の活動

専門家の助言で巣箱の設置、保護者の協力でムササビ観察用にツリーハウスの設置等をしたことにより、園児のムササビへの愛着も増していきます。ムササビに会えた喜びを表現したくなり、園児が作詞、担任が作曲し、「ムササビの歌」を作って保育参観で発表しました。

生態に詳しくなると、園児から「劇を作りたい！」という声が上がりました。自分たちで台詞や振り付けを考え、大道具も作り、年間保育の集大成である「生活発表会」で発表しました。発表では、「天敵のテンやフクロウも一生懸命生きてるから、悪者にするのはかわいそう」と様々な生き物の立場に思いを寄せ、考えることができるようになりました。

ムササビがすみやすい環境づくりのため、また持続可能な里山林を維持するため、毎年、園庭の各所に「どんぐり畑」を作ってどんぐりを育てています。

多様な連携とサポート

こうした一連の活動は、様々な関係主体との連携、サポートによって成り立っています。

地域の多様な主体との連携を深めながら、園児の「主体的・対話的で深い学び」につながる豊かな自然体験を大切にしています。

発表大会

日時 2024年(令和6年)2月4日(日) 13:00 ~ 16:00

会場 東京国立博物館 平成館 大講堂

- ・開会のあいさつ (公財)日本生態系協会会長 池谷奉文
- ・秋篠宮皇嗣殿下のおことば
- ・来賓のごあいさつ 文部科学大臣政務官 安江伸夫 氏
環境大臣政務官 朝日健太郎 氏
国土交通大臣政務官 こやり隆史 氏
ドイツ連邦共和国大使館
首席公使 マルティン・フート 氏
- ・上位5賞の表彰式
- ・上位5賞受賞校・園の取り組み発表
- ・講評 元都留文科大学教授 高田 研 先生
- ・受賞校・園との交流



秋篠宮皇嗣殿下のおことば

はじめに、今年の元日、石川県の能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生いたしました。この地震によって、石川県を中心に甚大な被害が生じました。本日ここに集われている皆様も心を痛めておられることと思います。

この地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。そして、被災されている数多くの方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災した地域の復旧・復興を願っております。

本日、隔年で開催されている「全国学校・園庭ビオトープコンクール2023」の発表大会に、皆様とともに出席できましたことを大変嬉しく思います。そして、このたび各賞を受賞される方々に心よりお祝いを申し上げます。

さて、2022年の「国際連合生物多様性条約第15回締約国会議」において、2050年に自然と共存する世界を実現するため、2030年までに生物多様性の損失を^{とど}止め、回復に転じさせる、“Nature Positive”の方向性が示されました。これに向けた取り組みとして、2030年までに陸域と海域それぞれの30%を保護・保全する“30 by 30”を主要な目標の一つとして掲げました。

2019年の国連報告書によれば、今後数十年で、およそ100万種の生物が絶滅するおそれがあると言われて

います。持続可能な開発目標、いわゆるSDGsには、目指すべき世界像として、「人類が自然と調和し、野生動植物その他の種が保護される世界」が記されています。そのことを達成するためには、私たち一人ひとりが自然からの恩恵を理解するとともに、自分たちの身近にある自然をよく観察し、関心を深めていくことが大切です。

その意味において、学校や園庭に作るビオトープは、そこに通う人たちにとって、自然と触れ合う場にとどまらず、自然との共存について考える大切な機会を提供してくれる場になると思います。このたびのコンクールにおける受賞事例では、普段生活する空間で様々な人々が協力し合い、自然との共存を試行する興味深い取り組みが行われていると伺っております。

そして、このような意義深い取り組みが広く紹介されることは、持続可能な社会の実現に向けた人づくり・地域づくりにも大きく貢献するものと考えます。

本コンクールも今回で13回目を迎え、学校や園にビオトープがあることの大切さが広く認識されるようになってきたことと思います。このことは、本活動に携わってこられた多くの方々のご尽力によるものであり、ここに深く敬意を表します。

おわりに、学校・園庭ビオトープの取り組みが、今後も日本の各地で普及し、自然を慈しむ心の輪が広がっていくことを祈念し、私の挨拶といたします。

